

第46回 地震は連鎖する？

IT生

5月10日、日向灘で地震が起きた。午前7時43分ごろ震度3、約1時間後に震度5弱だった。

ちょうどその時、仕事で宮崎市内にいた。1つ目の地震の時は、ホテルの最上階で食事をしていたので、けっこう揺れた。海底の地震なので、長周期地震の影響だろう。眼下の電線や周囲の低層ビルなどは揺れていなかったが、ホテルの最上階はいつまでもゆらゆらと揺れた。2度目の地震の時は、市内中央部の宮崎神宮にいた。地上で比較的大きな地震にあったのは初めてだったので驚いた。社殿がミシミシ音をたてた。



神武天皇ゆかりの宮崎神宮。用を足してトイレからでた瞬間に日向灘地震に遭遇した

「神さん、なんにも悪いことしてませんよ」と心の中でつぶやきながら、揺れるさなかに地震学者に電話をすると「3年前の熊本地震の影響でしょう」という。

そういえば、熊本地震が起きた直後、地震学者に取材をしたら、「経験則上、日向灘地震を引き起こす」と話していた。確かにここ数年、日向灘で地震が起きてはいた。今回も1つ目の地震のゆれ方から震源は日向灘だろうと思ったが、2つ目のほうが大きかったのにはちょっとびっくりした。しかもプレート境界地震だったというから、穏やかではない。気象庁は南海トラフ地震との関連を否定したが、マグニチュード7以上であったら、津波が発生していた可能性は高い。

比較的大きな地震が起きたら、われわれは阪神大震災以降の経験から、「余震」を気にする。われわれの感覚でいうと、「余震」といえば、「本震」があって、その震源周辺で次第に揺れが小さくなりながら、収束していくというとらえ方だった。気象庁も熊本地震の時までは、そう考えており、2度目の地震が震度7だったため、以来、「同レベルの地震が続けて起きる可能性があり…」という言い方に変えたのは周知のことだ。

「本震」と「余震」の関連性をメカニズムで説明するのは難しいが、最近では、「熊本地震と日向灘地震」との関連性にみるように、異なる地域、メカニズムの地震にも影響をあたえることも「余震」といつている。

平成23年の東日本大震災の影響による内陸地震は首都圏を中心として東日本で今でも続く。昨年6月の大阪北部地震の影響が震源周辺や京都南部で地震が、それ以前の数十倍に増えている。というような事実をみると、大きな地震が起きたら、周辺の都道府県で活断層のある場所は要注意ということになる。奇しくも、今回の日向灘地震を体感して、あらためてそう感じた次第であった。

(令和元年5月)